

令和2年度（2020年）度 追手門学院小学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『伝統と革新の教育で、世界で活躍するグローバルリーダーを育成する』

『建学の礎として、人格形成を第一義としつつ、最先端の教育環境による「革新」をも備えたゆるぎない伝統校』

2 中期的目標

- (1) 「志の教育」の実践強化
- (2) ICT を活用した学びの実践
- (3) 児童カルテの構築に向けた基盤整備
- (4) 英語授業の進化
- (5) 教員の英語指導力向上

【保護者アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

保護者アンケートの結果と分析（令和2年11月実施）	学校関係者評価委員会からの意見
<p>*そう思う：3、どちらかといえばそう思う：1、どちらかといえばそう思わない：-1、そう思わない：-3、わからない：0の加重平均</p> <p>【良かった点】（学校園「目標」実現のための取り組みとその「成果」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度の指標となる「入学を勧めますか？」では、「はい」「どちらかといえばはい」の肯定派が88%を超えた。「いいえ」は2.4%と、昨年度より割合が低下した。 ・本年度、調査項目（ポイント加重平均）の全体平均は2.03となり高評価となった。その中では施設設備の充実が2.69で最高ポイントとなった。メディアラボや電子黒板の導入など、ICT施設・機器の充実が高評価に繋がったと考えられる。同時に学校目標であるICT教育のポイントも高い。日常的に授業でICT機器を利用している成果が表れていると考えられる。 *2ポイントを超えるとかなり高い。1ポイントで普通。 <p>「ICT教育を積極的に授業に取り入れ、効果的に利用している」…2.33</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度特有項目の「コロナ関連」2項目でも、「感染対策」が2.33、「学習保障」が2.02といずれも高い値を示した。 <p>「学校は、学校再開後、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じて教育活動を行った」…2.33</p> <p>「学校は、緊急事態宣言中、児童とコミュニケーションをとり、学習を保障した。」…2.02</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全管理」…2.39、「異学年交流」…2.24、「専科授業充実」…2.21、「教育目標説明」…2.21、「友人関係」…2.16などが高い。 ・「中学校進学指導」は、昨年度から大幅に向上した。 <p>【改善点】（学校園「目標」実現のための取り組みとその「課題」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「志の教育」ポイント加重平均は、昨年度の1.55ポイントから1.74ポイントに上がったものの、満足できる数字ではない。 ・「学校は、こどもの英語力（聞く・読む・話す・書く）を伸ばす指導をしている」は、昨年度の1.64から上がったものの、1.77に留まった。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、「卒業生を迎えて（講演会）」を6年生対象に2回実施し、好評であった。学年を広げて実施するとともに、活躍する卒業生を紹介したい。 ・英語力向上に関しては、毎週月曜日の午後学習を「モリッチ先生のイングリッシュタイム」として読み聞かせを行い、「聞く力」を伸ばした。来年度も続け、更に英語力向上を目指す。 	<p>【第1回委員会が出された意見と回答】令和2年10月29日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で大変だと思います。先生方の取り組みに感謝しています。⇒全員の先生方で動画作成やZoomコミュニケーションを行った。登校開始後も、子どもたちの心のケアに努めている。 ・学校経営目標に「日本の文化を大切にする」が入っているのがうれしい。英語やパソコンも大事だが、創設者高島頼之助先生の思いをしっかりと伝えて欲しい。⇒郷中教育などについて、TV朝礼などで啓蒙している。朝礼の最後には校歌を歌い、愛校心を育てるように努めている。 ・勉強も大事だが、人格形成にも大事な時期。厳しさも今は難しいが、そのあたりどう折り合いをつけるか。愛情は伝わると思うので、子どもたちと正面から向き合っていただき、ありがたい。⇒時代に合った人格形成を目指したい。小学校時代は、人間の基礎を作る時期。後からわかることもあるので、しっかりとしつけない。 ・自分もこの学校が好き。「追手門学院小学校」という「強さ」でいて欲しい。「学校はこう思っている。」を常に発信して欲しい。「学校で指導されていることは聞きなさい。」と各家庭でも言ってもらいたい。⇒いい意味での「追小ブランド」の意識を保護者も子どもも持って欲しい。140年、150年と続く、素晴らしい学校に通っているのだという思いを持ってよう、努力を続けたい。1年生の時のガイダンスのようなことを他学年でも入れていくことも考えたい。 ・募集力の強化。ICT、国際化、情報、英語など今の情勢に合っている。⇒ICTや英語にも力を入れるが、鉛筆を持って字を書くことも大事。電子図書館もやるが本の重さも知って欲しい。バランスの取れた教育を目指したい。 <p>【第2回委員会が出された意見と回答】令和3年2月 書面で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩に話をしてもらおうキャリア教育は、子どもがよい刺激を受けた。6年生だけでなく4・5年生にもぜひ行き、将来を考えるきっかけになればよいと思う。⇒来年度以降もぜひ続けていきたい。 ・「善行をたたえて」の表彰制度はとてもよい。よいことをするときちゃんと評価されることは素晴らしいし、励みにもなる。⇒TV朝礼を利用して、「善行をたたえて」・「漢字検定」・「英検」・「多読者賞」・「読書感想画」などの表彰も行っている。毎週誰かが表彰されている雰囲気を作ることによって、子どもたちの励みになっている。 ・礼儀礼節は小学校時代に身につくものなので、少し厳しめでいいと思う。⇒「礼儀礼節」は本校の基本。コロナ禍の中でも、大事にしていきたい。 ・コロナ禍で体育大会や臨海学舎がなかったのは残念。今後も行事を大事にして欲しい。⇒あらためて行事の意義について見直す機会となった。行事は、教育的な意義も高く、子どもたちの様々な力を伸ばしてくれる。来年度の行事はその時の情勢次第だが、何のためにするのか？できることは何か？を考えながら積極的に取り組みたい。

3 本校の取り組み内容および自己評価

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「志の教育」の 実践強化	①キャリア教育の推進 ②人材の発掘 ③礼儀礼節 ④生活指導の見直し	①児童が特に強い憧れを抱くキャリアを有する人材の選定と来校の打診を行う。 ②大学 1,2 回生となる追小卒業生への進学先調査を実施する。 ③礼儀・礼節に関する評価基準を設け、児童一人ひとりのレベル評価を実施する。 ④生活実態調査の実施準備を行う。	① 5 名以上リストアップのうえ打診 ②リストの作成 ③各クラスに一覧表を作成 ④アンケートの立案・検討	①文化的催しの中で、多くのプロを招聘し体験会、講演会、ワークショップを行った。卒業生からビデオメッセージ（アルバニア大使）や卒業生による講演会（医大生）2 回を行った ②作成の途中である。早急に完成させたい。 ③「追手門児童の姿」の評価基準書を作成した。 ④6 月に生活アンケートを実施。年度末にコロナの 1 年を振り返るアンケートを実施。
2 ICT を活用した 学びの実践	①プログラミング授業の指導と ICT 活用の授業研究	①ICT 活用の授業研究を行い、新たな指導方法を試行的に実践する。	①先進事例・ベストプラクティスの研究 15 件以上 ・現地調査 3 件以上 ・ICT 活用をテーマとした検討会議 1 回/月以上 ・全教員による ICT を活用した研修授業の実施	①教科の中でのプログラミング教育を研究。（研究授業 2 回実施） ・コロナのため学外での研修が制限されたため、オンラインによる研修が多かった。 ・動画配信授業を実施のため、月 1 回以上の検討会議を持った。 ・コロナ感染対策の中のため公開授業が難しかったが、ICT を活用した研修授業をほぼ全員できた。
3 児童カルテの構築に向けた 基盤整備	①e ポートフォリオのコンテンツ開発 ②評価基準の構築検討	①e ポートフォリオのコンテンツ開発及び掲載可能なシステム整備を進める。 ②ルーブリック評価などのパフォーマンス評価の研究と導入。	①先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・現地調査 1 件以上 ・ポートフォリオをテーマとした検討会議 1 回/月以上 ・学習成果物や記録の精選とデジタル保存 3 つ以上/児童 ②先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・ルーブリック等のパフォーマンス評価をテーマとした検討会議 1 回/月以上	①先進事例を研究のため月例に限らず複数回の検討会を実施し、新学習指導要領に沿った、指導要録の記載システムを導入した。コロナのため現地調査はできていない。 ・デジタル桜童展（作品展）を実施し、図工、習字、家庭科、クラブの作品をデジタル配信した。作品をポートフォリオに保存することは容量の点で難しいと結論づいた。 ②コロナのため研究授業の回数に制限があり、新評価基準によるルーブリック評価などのパフォーマンス評価の研究が停滞した。 ・評価基準の構築として、先行事例、ベストプラクティスの研究を 5 件行った。ルーブリック評価の検討会を 8 回行った。パフォーマンス評価がすべての研究授業で活用されるようになった。
4 英語授業の 進化	①モジュール授業の増加 ②姉妹校とのコラボ授業 ③大阪城プログラムの実施 ④国際コースの検討	①モジュール授業の 1 回あたり時間を短縮し回数を増加する。 ②姉妹校との協議及び必要なハード面の整備を行い、姉妹校とのコラボ授業を試行的に実施する。 ③昨年度作成した大阪城ノートに基づき「大阪城プログラム」を試行的に実施する。 ④初等中等室と連携し、国際コースやイマージョンの展開に関する法令や制度設計上の調査を実施。	①15 分×3 回/週⇒10 分×5 回/週で実施 ②交流授業を 1 回以上実施 ③研修授業を数回実施 課題や今後の展開をテーマとした検討会議を実施/各学期末 ④法令や制度設計上に関する調査結果報告書の作成	①英語朝礼の形を取り入れたモジュール授業が生まれ、新しい学びが始まった。 ②オーストラリア姉妹校の教員がオンラインで 6 年生児童を対象に計 4 回の授業を実施。また、今年度は相手校児童に対して、本校教員 2 名が 4 回授業を実施した。 ③コロナのため大阪城プログラムがすべて中止となった。次年度に向けた計画の練り直しを行った。 ④国際コースやイマージョンについて、先行事例を調査した結果、費用対効果が低くいため制度の見直しを行い、今までのカリキュラムで英語が強い学校に方向性を変えた。
5 教員の英語指導力 向上	①外部検定試験の受験 ②海外英語研修や校内英語研修の実施 ③学習到達目標の明確化	①外部検定試験（英検など）の受験 ②海外英語研修を継続するとともに外部検定試験対策を取り入れた校内英語研修を任意開催し、制度化に向けた対応を検討する。 ③学習到達目標の明確化に向けた検討を実施する。	①原則全教員 1 回/年 ②姉妹校との教員交換 1 名/年 ・セブ島英語研修 2 名/年 ・校内英語研修 概ね 1 回/週 ・予算や時間の確保等、制度化に向けた検討・調整を実施 ③CAN-DO リストの先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・学習到達目標・評価をテーマとした検討会議 1 回/月以上	①コロナのため、英検受験に制限がかかった。教員の英語力向上のための外部試験の受験を今後も進める。 ②コロナのため海外研修はすべて中止。概ね週 1 回火曜日に教員英会話研修を実施。英検受験に特化したコースも設けた。 ・英語研修の予算化、時間の確保等、制度化に向けた検討・調整を実施できなかったため、次年度の課題とする。 ③学習到達目標の明確化に向けた CAN-DO リストの先進事例・ベストプラクティスの研究を 8 件行った。